

LET'S

一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail:lets@some.jp

平成28年1月

うるわし通信

あけましてお目出とうございます

うるわしの桜井をつくる会会長 堀井良殷
事務局員一同

今年も多武峰談山神社の神樂式で年が明けます。

今年は申(さる)の年。申といえば大和申樂(さるがく)を思い出します。

日本が世界に誇る能樂は、元来、申樂といわれていました。その完成者世阿彌は申樂は、神樂であるといっています。

漢字のもとである甲骨文、金石文の研究者として世界に名高い白川静は、申はすなわち神の意であると説明されています。

大和申樂は当時の多武峰領内の山田で興隆したので山田申樂ともいわれています。申樂が後に猿樂と呼ばれたのは、上から目線の差別観によるものです。

申樂は多武峰で伝承され、10月の維摩八講会(ゆいまはっこうえ)には申樂が二日間催されたといわれ、多武峰妙樂寺の僧侶一同も演じて、それぞれ芸能を競いました。

世阿彌は多武峰の申樂を尊重して、近畿一円に居ながら、これに参加、奉仕しない者は山田申樂一座より永久追放すると、きつく言い渡しています。

妙樂寺の後を嗣いだ談山神社は、この歴史由来を後世に伝える意義あるとして、顕彰し、正月二日に神樂式として毎年公開しています。

この日は神社に古来伝わった翁の舞を演じて新春を言祝(ことほぎ)ます。

ちなみに言祝は人類が言葉を獲得した記念ともいうべき言葉で「おめでとう」「おはよう」など伝えられています。「グッドモーニング」も同じ言祝なのです。

今年は演者側が服喪中のため、日本舞踊の奉納がありました。多武峰から新春を寿ぐ大切な行事で、訪れた観光客も身近に伝統行事に接し、ともに寿ぎ、祝意を天地に捧げました。 浅川 肇



平成27年度 桜井記紀万葉歌碑原書展 開催

昨年近鉄あべのハルカスで開催し、好評を得た「桜井記紀万葉歌碑原書展」を平成27年12月5日から13日まで奈良県立万葉文化館で開催しました。うるわしの桜井をつくる会も実行委員会の一員として、準備段階から参加し、開催期間中も会場で多くの方々と接し、文化遺産の紹介と歴史のふるさと桜井への来訪を呼びかけました。期間中の入場者は約850名でした。開催中の参加者の声を紹介します。(詳細は現在報告書作成中のため後日発表)

●万葉講演会について

上野誠、村田右富美、井上さやか三人の先生方の特質が伺え好評であった。「講師の声が聞きとりにくかった」、「講演内容に不満」、「定期的に万葉講演会を開催してほしい」等の要望も出された。

●展覧会の感想

一般的に好評であったが、一部不備な点や今後の改善要望も多く出された。「周知の不備、PRに工夫がほしい」、「拓本の仕上げが悪い。補修してほしい」、「原書展を全国展開してほしい」等々。



今回は開催期間中に安倍小学校6年生78名が来館し、学校周辺に存在する文化遺産に関連する特別授業を万葉文化館主任研究員・小倉久美子氏から受けました。

授業は万葉仮名のルーツと変遷の話や万葉仮名を使ったクイズ方式で進められ、子供たちも大いに興味を示し、楽しい授業となりました。授業の後は全員で展示会場を見学し、ボランティアガイドの方から説明を受け、自分たちの周りに存在する文化財の多くに感動していました。うるわしの桜井をつくる会は先生の話聞くだけでなく、自分たちの周りにある文化遺産を実際に子供たちの目で確認することを学校に提案しました。

桜井市教育委員会、安倍小学校校長の了承を得て、安倍小学校6年生を対象にボランティアガイドの皆さんの協力の下、磐余地区の遺跡や歌碑めぐりの校外学習を準備しています。(平成28年1月29日予定) また28年度以降も校外学習を続けていくことで、校長先生のご了解を得ています。当会では今後も桜井100選出前講座のジュニア版として、郷土の自然や文化遺産を愛し、ふるさと桜井に誇りを持つ子供たちの育成に協力していくとともに、市内の各小学校にも参加を呼びかけていきたいと考えています。(高瀬記)

山の辺の道 ムダバナシ

邊

県立万葉文化館で記紀万葉原書展が開催されました。会場の入り口には小林秀雄の揮毫した『山邊道』がありました。日本文化は中国文化の影響を受けています。この三字だけで、読むときは〈の〉を補って〈やまのべのみち〉と読むのです。

〈邊〉が珍しいので、早速、館内の図書館に行って調べました。諸橋 轍次の『大漢和辞典』は日本最大の漢和辞典で48,902字所載されていますが、その中にはありません。職員さんの協力も得て、他の書籍にも当たりましたが、その由来は不明でした。

帰宅後、調べてみますと、1340年、中国の恋愛小説『遊仙窟』の書写本に〈邊〉があり、日本では江戸時代、西鶴の作品にも〈野邊〉などとして使用されていることが判明しました。〈邊〉は〈邊〉の異字体で、意味は同じです。

邊

これが古事記・日本書紀、その他で使用されている文字で、わたしたち昭和ヒトケタ世代は小学校で本字として教わりました。

昔はパソコンなどありません。印刷機もないので、本はすべて手書きであり、それを筆写します。筆写の過程で、筆順などで字体が変化することもありました。これが誤字でなく異字体として通用することになります。幕末の学者で書家でもあった市河米庵の研究書には邊があります。

辺

〈邊〉の略字として教わりましたが、戦後は何度かの漢字改革があり、現在は常用漢字となり『山の辺の道』と標記されることとなりました。

ところが、これが登場したのは近代になってからのようです。江戸期の異字体字典に似た文字として〈辺〉があげられています。

日本で開発した字を国字といい、〈峠〉〈辻〉などがありますが、あるいは〈辺〉も国字というべきかも知れません。

辺

これが現代、中国で通用する文字です。中国は文化政策として簡字化が進められ、本字の〈邊〉は〈辺〉となっています。

とくしんにゆうは歩行に関係した文字で進退、遅速、遠近など馴染み深いものがあります。

〈辺〉は辺境・辺地など中心から遠く離れた場所をいいます。

そうすると辺境には力が必要で〈辺〉なのか。刀が必要として〈辺〉なのか。

意識的か、無意識的なのか。どちらも政治力学的で面白くない。そこへ行くと

邊

はいかにも風流な字です。

浅川 肇



第5回新春交流昼食会

昨年、桜井市高家に開業した「オーベルジュ・ド・ぷれざんす 桜井」はじめ複数のレストランブランドを有する「ひらまつ」の敏腕経営者でもあり、「なら食と農の魅力創造国際大学校」初代校長に就任される予定の平松博利氏にご講演をいただくとともに、例年のようにお楽しみ抽選会も行いますので是非ともご参加下さい。

なお、会員のみならず、当会に関心をお持ちの皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

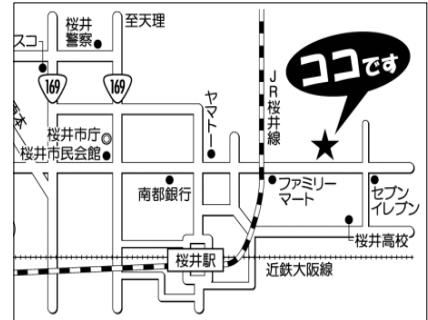
日時 平成28年1月31日(日) 午前12時(受付開始 11時30分)

場所 あるぼ〜るイベントホール(近鉄桜井駅から徒歩15分)

桜井市粟殿355番地 TEL:0744-45-3955

会費 3,000円 1月15日までに参加申し込みが必要

申し込み先: ひがし俊克 TEL:090-3652-8104



お知らせ

●第31回架け橋美術展

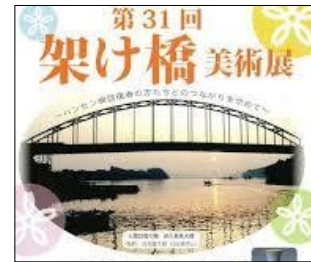
日時 1月15日(金)~17日(日)10時~17時(最終日は15時)

場所 桜井市役所玄関ロビー:2階大会議室 入場無料

主催 架け橋 長島・奈良を結ぶ会

第31回架け橋美術展桜井市実行委員会

☎0744-42-9111 桜井市人権施策課内



●安倍地域の歴史を語る会

学説だけでなく後世に伝えたい話などをお聞かせ下さい。多数のご参加をお待ちしています。

日時 2月20日(土)午後1時30分から

場所 まほろばセンター市民活動交流拠点

問い合わせ先 浅川 肇 TEL:090-1961-6345

●図書館友の会

1月の読書会は、『泥の河』宮本輝著を読みます。

昭和30年の大阪の河川地帯、少年に訪れた人生。めぐり会っては、また突如として別れる。そのこと自体を、まるで奇跡のように大切に思う少年の純粋な魂。

日時 1月26日(火)午後1時30分から

場所 まほろばセンター市民活動交流拠点

問い合わせ先 浅川 肇 TEL:090-1961-6345



編集後記 多武峰談山神社の全身、妙楽寺は少なくとも800年以前に独自の芸能を生み出し、このため中世から多武峰芸能の聖地と畏敬されて来た。これが廃仏毀釈以来かえりみられなかったのは、明治以来、国家神道の強制が神社側にも、氏子側にも浸透して、芸能などは卑しい業とされたからである。時代は変わって、現在は神社をイベントの場と考えている人が多い。しかし、それは境内を劇場と捉えているだけで、芸能を神への呪詛としてのわざとまでは思っていないのである。

神をまつるのは上から目線の〈まつりごと〉と下からの〈わざ〉がある。〈わざ〉は言祝(ことほぎ)に深くかかわり、お正月につきものの、漫才やお笑いも立派な起源があるのです。(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345